調査・研究

自然環境を保全するために、動植物の生息状況やそれを取り巻く環境の変化などを常に調査し、保全方法の研究をしています。

- タンポポ調査(1975～)
- 里山一斉調査(1983～)
- 万博記念公園野生生物調査(2005～)
- 環境省モニタリングサイト1000里地調査
コアサイト：穂谷(2005～)
一般サイト：鉢が峯・紫金山公園など(2009～)
- 高槻本山寺周辺域の森林調査(2010～)
- サシバ生息調査(2014～)
- 里山指標生物調査(2014～)
- カヤネズミ調査(2017～)
- 夢洲生きもの調査(2019～)など

※ これらの研究報告はホームページや「ネイチャーおおさか・スタディファイル」等で順次公開しています。

政策・提言

持続可能な開発目標SDGsでは、生物多様性に富んだ自然環境が、現在と未来の人々の幸せにとって不可欠だと位置付けられています。当協会では、このSDGsの考えに沿って都市圏の自然環境を守るため、各市町村の自然環境保全の施策を見守り、各種の提言を行っています。

里山保全・農空間保全

農家の高齢化などで放置され荒廃し、生物多様性が失われゆく里山の自然を維持回復させるため、各地で雑木林の保全管理や休耕田利用などを地元と共同で実践しています。

土地トラスト活動

都市への人口集中によって山林への手入れが定期的に行われなくなり、全国的に放置山林が増加。そのうえ公共事業・宅地化・太陽光パネル設置などの開発で、緑地減少が加速しています。これらの森林や緑地がこれ以上失われないよう、当協会は土地等トラストのご相談を受け付けています。

社会的ニーズへの対応

当協会は、都市圏の地域自然環境の調査、保全計画の作成・提案、普及啓発活動などを行う「自然保護センター」でありたいと考えています。

市民からの自然保護についての相談を受け付けたり、地域の自然保護団体と協力し、さまざまな協働を通して、より豊かな自然環境を未来へ残すお手伝いをしています。

受託調査・受託事業

当協会は公共団体や企業からのさまざまな要請によって、専門性を生かした調査や保全計画作成、自然回復の計画実施、環境教育の講師派遣や人材育成など数多く手がけています。

講座・講演会の開催

当協会では特色ある講座を年間を通して開催、毎年約100名が受講しています。2020年にはオンラインを使った講演会や講習会を開始しました。

- ナチュラリスト入門講座(1977～)
- 自然観察インストラクター養成講座(1990～)
- 自然かんさつ塾(1995～)春・秋コース
- 自然環境市民大学(2003～)前期・後期
- 新・里山講座(2016～)
- 環境教育の指導者養成プログラム(2007～)年8回程度開講

これらの講座の修了生は、さらなる研鑽と親睦の場としての修了生の会があり、さまざまな自主活動を行っています。また、協会のスタッフとして受託事業で多数活躍しています。

自然観察会活動とテーマ型グループの活動

当協会では、地域自然観察会やテーマ別観察会などのグループ活動が活発です。発足当初から樹木の観察会などを続けていましたが、2020年には地域自然観察会が13、テーマ別観察会グループが10になり、現在も活発に活動しています。

また従来の自然観察のほかに、プラスチック海洋ゴミを考えるチームや、カレーを一から手作りするグループ、環境問題映画を上映するグループ、自然を通しての学びの場を提供する「サイエンスカフェ」など、新しい形のグループが次々生まれています。これらはどなたでも参加することができます。

一斉行事

自然観察会では、四季折々、協会一斉行事も行っており、一般の市民のみなさん(特に子ども連れのファミリー)に、自然の大切さ、自然と遊ぶ楽しさを伝えています。

春

里山一斉調査(1983～)
タンポポ調べ隊(2018～)

夏

セミ羽化ウォッチング(2013～)

秋

どんぐりまつり(1993～)

冬

冬鳥ウォッチング(2019～)

インターン生受け入れ

未来の社会を担う若い世代のための、環境保護の学習や活動の現場の体験といった、さまざまなプログラムを用意しております。

情報発信・普及活動

会報誌「都市と自然」を定期発行。また、印刷会社との協働制作でファミリー向け情報誌「しぜんにタッチ」を不定期発行しています。インターネットでは、協会公式ホームページとSNS公式アカウントによって、常に新しい自然保護の情報を発信し続けています。2020年にはオンライン講演会も開始しました。それらの活動により、各地の自然保護団体との協力関係も生まれてきています。

また、他団体とのコラボレーションの環境映像祭や、自然史フェスティバル出展などの機会により、市民への普及活動を進めています。

明日へむけて

大阪自然環境保全協会は、身近な自然を愛し、これを守り育てたいと願う市民が集まってつくった自然保護団体で、1976年に社団法人として発足しました。2012年には公益社団法人になりましたが、現在も会員による自主運営の市民団体です。

2019年には5か年の中期計画を策定し、「共生の一步先へ。自然とともに明日をつくる」というビジョンをかかげるとともに、「自然を豊かに」「社会を豊かに」「活動を支援する」の3つの柱で活動を推進しています。

会長
夏原 由博
名古屋大学名誉教授
(保全生態学)

これまでのあゆみ

- 1976 「南港の野鳥を守る会」や「自然を返せ!関西市民連合」などの市民運動から自然保護団体として、社団法人設立認可を得て発足。初代会長は筒井嘉隆(動物学者・大阪市立自然史博物館初代館長)
- 1977 箕面ニホンザル保護運動を開始
- 1977 第1回ナチュラリスト入門講座開講
- 1979 大阪府内全域を銃猟禁止区域に!キャンペーン
- 1980 第2回タンポポ調査(第1回は1975年)
- 1986 第1回里山シンポジウムを開催し、里山保全活動を本格化
- 1987 北摂のニホンジカ保護運動を開始
- 1989 第1回土・水・空気・生き物を考える環境保全の集い(~1999)
- 1990 自然観察インストラクター養成講座開講
- 1993 府内一斉「どんぐりまつり」開始
- 1994 日英合同里山シンポジウム
- 1995 シニア自然大学・自然かんさつ塾開講
- 1997 第1回「おおさか環境賞」大賞受賞
- 2002 脱ダムネット関西の発足・加盟
- 2003 自然環境市民大学開講
- 2004 大阪府民環境会議に参画
- 2004 対外自然協力隊発足
- 2007 事務所を現在の天神橋に移転
- 2011 土地トラスト活動開始
- 2012 公益社団法人に移行
- 2012 水道記念館水族展示廃止反対運動
- 2013 「みんなでセミ羽化ウォッチングinおおさか」開始
- 2013 リスクマネジメントへの取り組み開始
- 2015 草地生態系保全の人材育成開始
- 2016 市民活動大賞・損保ジャパン日本興亜環境財団賞受賞
- 2017 「新・里山講座」開講
- 2017 40周年記念行事(シンポジウム・ポスターコンクールなど)
- 2018 ささやまミーティング参画
- 2018 サンバプロジェクトin大阪がバードリサーチ賞受賞
- 2018 えぼしがた公園自然観察会が「おおさか環境賞」大賞受賞
- 2019 夢洲生きもの調査開始・環境アセスメント市民提案
- 2019 ボランティア事務局体制へ移行
- 2020 ジュニア会員制度発足
- 2020 オンラインによる講演会・講習・会議始動

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

これらの活動を支えるために

会員になってください!

当協会の運営は、会員の会費によって支えられています。社会に自然の大切さを発信していくためには、会員人数が力になります。どなたでも入会できます。自然を守る仲間になってください。入会金は無料。会費の年度は4月より一年間。入会月によって金額が異なります。

ご寄付・ご支援をお待ちしています!

協会の活動を経済的に支えてください。寄付をすると税制優遇措置が受けられます。企業・団体からのご支援も大歓迎です。CSR活動もご相談ください。

郵便振替 00990-4-5567

ゆうちょ振込 14190-11666061

会員別年会費	入会月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
正会員	10,000円/年	10,000円	7,500円	5,000円	2,500円
協力会員	4,000円/年	4,000円	3,000円	2,000円	1,000円
学生会員	2,000円/年	2,000円	1,500円	1,000円	500円
ジュニア会員		1人 500円/年	* 3歳から15歳未満の方		
家族会員		1人 500円/年	* 正・協力会員のご家族の方		
賛助会員		1口 100,000円/年			

* 学生会員は15歳から30歳未満の学生の方です。